

# 日本の観光競争力、世界9位 「おもてなし」評価

【ベルリン＝原克彦】

日本経済新聞 2015/5/7

世界経済フォーラムが6日発表した2015年の旅行・観光競争力ランキングで、日本は世界で9位と前回13年の14位から順位を上げた。07年の調査開始以来、過去最高になった。「客の待遇」の項目で首位となり、「おもてなし」の心が高く評価された。

今回から安全面の評価に「テロ発生率の低さ」と「殺人事件の発生率の低さ」が加わり、それぞれ1位と2位だったことも貢献した。

日本は過去の調査に続き、鉄道網の整備や衛生状態、飲用水へのアクセスなどで順位が高い。また、円安の恩恵もありホテル料金が71位から36位へと大幅に改善した。観光ビザの自由化は111位と前回の96位から後退している。

上位10カ国の半数以上を欧州が占め、スペインが初めて首位に浮上した。文化面で観光資源が豊富なことに加え、旅行者がインターネットで情報を集める傾向が強くなっているのに対応していることが評価された。前回首位のスイスは通貨高の影響などで6位に下がった。

調査の対象は141カ国・地域。アジア太平洋ではオーストラリアが7位と最高で、シンガポール(11位)や香港(13位)のほか、ニュージーランド(16位)と中国(17位)が20位以内に入った。



外国人観光客でにぎわう浅草寺(東京都台東区)

## Wikipedia

**旅行・観光競争力レポート**(りょこう・かんこうきょうそうりょくレポート、Travel and Tourism

Competitiveness Report)は、世界経済フォーラム(WEF)により、2007年以降公表されている、旅行・観光業の世界各国(地域)の事業環境に関する研究報告書である。旅行・観光業の利害関係者(ステークホルダー)に向けた、プラットフォームの提供を目的としている。

報告書内では、各国(地域)の事業環境に関する評価を、「旅行・観光競争力指数」として算出(算出方法に関しては後述)した上でそのランキング掲載、併せて各国(地域)の具体的なプロフィールや補足情報が掲載されている。

世界経済フォーラム(World Economic Forum)は、グローバル・シチズンシップの精神に則り、パブリック・プライベート両セクターの協力を通じて、世界情勢の改善に取り組む国際機関です。ビジネス界、政界、学界および社会におけるその他のリーダーと連携し、世界・地域・産業のアジェンダを形成します。1971年にスイスのジュネーブに本部を置く非営利財団として設立された世界経済フォーラムは、いずれの利害関係にも関与しない独立・公正な組織です。あらゆる主要国際機関と緊密に連携して活動しています。(www.weforum.org)

## 朝日新聞デジタル

**日本の観光競争力、世界9位 世界経済フォーラム発表** ジュネーブ＝松尾一郎 2015年5月7日  
ダボス会議の主催で知られる「世界経済フォーラム(WEF)」は6日、最新の「旅行・観光競争力報告書」を発表した。日本は141の国や地域中で9位にランクインした。トップはスペイン。次いでフランス、ドイツ、米国、英国、スイス、オーストラリア、イタリアが続き、10位にカナダが入った。上位は欧米でほぼ独占された。アジア太平洋地域ではシンガポール11位、香港13位、ニュージーランド16位、中国17位、マレーシア25位、韓国29位、タイ35位だった。日本は、文化といった観光資源や、安全、衛生、交通インフラなどの点で総じて評価が高かった。一方で、価格競争などの点で評価が低かった。(ジュネーブ＝松尾一郎)

世界経済フォーラム(World Economic Forum) ニュースリリース

日本の旅行・観光競争力はアジア第1位

・世界経済フォーラムの旅行・観光競争力指数(TTCI) 2015で、日本は、文化資源、健全なインフラ、世界トップクラスのデジタル経済が評価されての第9位。・2015年度のレポートでは、スペインが初めて世界第1位。アジア地域の9の国と経済体が上位50位までに入り、中国は第17位だった。・旅行および観光産業の形成に、ICT(情報通信技術)および開発途上国や新興経済国からの新中産階級の影響強まる。

2015年5月6日、スイス、ジュネーブ-世界経済フォーラムが発表した2015年度の旅行・観光競争力指数によると、日本は、旅行・観光産業の競争力がアジアで最も高い国になりました。旅行・観光競争力指数は、141カ国について、持続可能な旅行・観光産業を通じて、経済や社会に利益をもたらす能力を測定するものです。アジア地域では、日本のほかにシンガポール(11位)、中国(17位)、マレーシア(25位)、タイ(35位)、インドネシア(50位)など8カ国が50位以内に入りました。

日本の競争力指数は第9位で、上位には主要な観光目的地であるオーストラリア(7位)やイタリア(8位)がランクインしています。日本が優れた結果を残せたのは、十分に発展したデジタル経済によるところが大きいと言えます。そのおかげで日本は、豊かな文化資源を海外にアピールできただけでなく、文化やエンターテインメントに関してオンラインで頻繁に検索される国となりました。日本が、観光目的地として昔から有名なスペイン、フランス、ドイツ、米国、英国、スイス、オーストラリア、イタリア、カナダとともにトップ10に加わった一方で、これらの経済先進国と新興市場との間の競争力の差も縮まりつつあります。東アジアは世界でも特に活気あふれる観光スポットとなっていますが、これは、この地域からの国際到着便と中産階級の旅行者の数が増加していることからうかがえます。また東南アジアも、2013年から14年の期間で最も多くの旅行者が訪れた地域の一つとなりました。

この地域の内外からの需要の高まりにつれて、旅行や観光が社会や経済に及ぼす効果を推進させるため、デジタルと物理的なインフラの開発が依然として必要な国が数多くあることがレポートに示されています。それと共に、観光志向の国や地域が、変化する市場力学により良く適応できると思われる分野についても明確にされており、例としてモバイルインターネットの急速な普及に対応するため、旅行を選択、計画、検討する上での手段としてのオンラインサービスの採用などが挙げられています。またレポートの中では、さらなる環境保全対策を行うことで、将来的に競争力を確保し得る国が数多くあることも明らかになりました。しかしこの点については、タイ(116位)、フィリピン(122位)、ベトナム(132位)、インドネシア(134位)、中国(137位)などの国で遅れが見られます。

世界経済フォーラムのエコノミストであるロベルト・クロツィティ(Roberto Crotti)は次のように語っています。「旅行者は、目的地を決める際に、環境問題に対してますます敏感になっています。そしてまた、メディアやインターネットの普及により、以前よりも多くの情報を得られるようになりました。それでも多くの国では、環境保護や、ICT(情報通信技術)準備度や、文化遺産のさらなる振興など、旅行や観光に関する課題に取り組むために、まだできることがあると思います。そうすることで、更なる競争力の増加や雇用の拡大へとつながっていくと思います」

旅行・観光競争力レポートでは、141カ国を対象に、14の項目について順位付けを行なうとともに、各国の競争力について長所と短所を知る指針となる詳細なプロフィールが示されています。また、指数の計算に際して使用した経済指標を含むデータ一覧を詳細に示したセクションが設けてあります。

世界経済フォーラムは、Strategy&と、データパートナーである、ブルームコンサルティング(Bloom consulting)、デロイト(Deloitte)、国際航空運送協会(IATA)、国際自然保護連合(IUCN)、国連世界観光機関(UNWTO)、世界旅行ツーリズム協議会(WTTC)との協力によりこのレポートを作成しました。